

# みさき地域活動“発表会” ~地域福祉共育実践プレゼンテーション~ ありがとうの気持ちをカタチに！

大人も子どもも地域の中で共に生き、学びあい  
育ちあう「福祉共育」の推進に向けて

(令和3年度 福祉協力校推進指定事業等活動資料集)



社会福祉法人 岬町社会福祉協議会  
(この冊子の作成には共同募金配分金を活用させていただいています。)



# 目次

- はじめに . . . . . 1
- 岬町立 淡輪小学校 . . . . . 2
- 岬町立 深日小学校 . . . . . 8
- 岬町立 多奈川小学校 . . . . . 14
- 岬町立 岬中学校 . . . . . 20
- 赤い羽根共同募金しくみと配分金のつかいみち . . . . . 26
- 精神保健福祉ボランティアグループ「ほのぼのみさき」 . . . . . 27
- 精神保健福祉家族会「あすなろ」 . . . . . 29
- 岬町介護者（家族）の会「ほほえみ」 . . . . . 31
- <参考>  
令和元年度地域福祉実践プレゼンテーション . . . . . 34

# はじめに

平素は、岬町社会福祉協議会の諸事業に対し、温かいご理解とご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本協議会では、第3次岬町地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本理念である『心つながり ふれあう みさき』の実現に向け、住民の皆さま並びに地区福祉委員会や福祉協力校（淡輪・深日・多奈川小学校、岬中学校）、関係機関等の皆さまと共に、大人も子どもも含む地域住民が共に学びあい、共に育ちあう『“福祉共育”＝共に育つ力を育む』を中心に、町ぐるみで様々な地域活動に取り組んでいます。

毎年8月には「みさき地域活動“発表会”～地域福祉共育実践プレゼンテーション～ありがとうの気持ちをカタチに！！」と題し、皆さまから温かいお力添えをいただいております赤い羽根共同募金のしくみや福祉協力校等による取組発表を中心とした配分金活動報告会を開催しています。

令和3年度におきましても、8月24日の開催に向けて準備していましたが、緊急事態宣言を受け、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度に続いて開催を中止せざるを得なかったことから、発表を予定していた福祉協力校や配分金受配団体の取組をまとめた上で、コーディネーターとご講演をいただく予定でした、四天王寺大学（教育学部 教育学科）吉田 祐一郎 准教授からコメントをいただき、本冊子を作成いたしました。

本冊子によって、地区福祉委員会や福祉協力校、活動団体等への理解が深まり、さらなる地域活動の発展、そして『“福祉共育”を通して町づくりを考える』一助になれば幸いです。

令和3年11月

社会福祉法人 岬町社会福祉協議会

会 長 辻 下 謙 二

# 岬町立 淡輪小学校

## 学校の概要

|        |  |
|--------|--|
| 対象児童数  | 全校児童 376 名<br>1年生66名・2年生54名・3年生56名<br>4年生80名・5年生64名・6年生56名   |
| 教育目標   | 笑う   |
| 目指す児童像 | <ul style="list-style-type: none"><li>・進んで学習にとりくむ子ども</li><li>・自分を大切にする子ども</li><li>・仲間を大切にする子ども</li></ul> |
| 校訓     | かがやけ淡輪っ子 元気いっぱい 夢いっぱい  |

|                   |   |
|-------------------|---|
| <p>事業・活動目標</p>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちや人と出あい、自分との関わりについて学び、人や社会と共に生きることの大切さについて考えを深める。</li> <li>・全ての人暮らしやすい社会を築くために自分にできることを考え、実行しようとする意識を高める。</li> </ul> |
| <p>事業・活動の位置づけ</p> | <p>地域と協働でつくる福祉共育として、人権総合学習の中の「障がい理解教育」及び「地域学習」等として位置付ける。</p>  |

○各学年・全校児童の取組等

|  |   |
|--|---|
| <p>1年生 地域学習<br/>「むかしあそびめいじんになろう」</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔遊びを通じて地域の方とふれあい、温かい交流を通して地域への愛着心を育む。</li> <li>・教えていただいた遊びを友達や家族等と楽しみ、親交を深めていこうとする意欲を高める。</li> </ul> <p>【協働団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区福祉委員さん</li> <li>・民生児童委員さん 計約20名</li> </ul> <p>【児童の学び】</p> <p>ゲストティーチャーの方々にしっかりとあいさつをしたり、ほめられてとても喜んだりしていた。「ちいきの人はおてだまを3こもできてすごかった。おてだまができなかったのに、できるようになった。」「おしえてくれたあそびをおうちの人にしらせたい。」などの感想があった。</p> |    |
|--|---|

## ○各学年・全校児童の取組等

4年生 障がい理解教育  
「車いすに乗ってみよう！おし  
てみよう！感じてみよう！」

### 【ねらい】

・車いすに乗って校内をめぐる  
ことで、日常の中にある「バリア」やバリアフリーに気づき、  
全ての人にとってすごしやすい  
社会を築いていくために、自分  
にできることについて考えを深  
める。

### 【協働団体】

・社会福祉協議会さん  
(コロナの影響で昨年度は地区  
福祉委員さんと岬高校の生徒さん  
に入っていたことはでき  
なかった。)

### 【児童の学び】

はじめに、社会福祉協議会の方から、社協の取組や車いすの  
使い方を教えていただいた。実際に車いすに乗ったり押したり  
する体験を、積極的にすることができた。新しくできたユニ  
バーサルトイレもコースに入れ、  
よさを体感することができた。  
「心のバリアも障害物のバリア  
もどちらもなくしていきたい  
と思った。もっとみんなに障がい  
者のことを知ってもらいたい  
と思った。」「C棟に行くス  
ロープの幅がせまかった。でき  
れば広げられたら、みんなに便  
利だと思う。」などの感想が  
あった。





## ○各学年・全校児童の取組等

### 5年生 平和学習 「戦争体験聞き取り学習」

#### 【ねらい】

- ・ 史実を踏まえ戦禍の実態を知り、平和な社会を築くために自分にできることについて考えを深める。
- ・ 互いに考えを尊重し、うまく折り合いをつけたりすることの大切さについて考える。

#### 【協働団体】

- ・ 地区福祉委員さん

#### 【児童の学び】

時代背景や考え方、聞かせていただく姿勢などを事前に学習したうえで、地域の方から戦争体験の講話をいただき、「平和の大切さ」を心に刻むことができた。

「地域の方が伝えたいことは、もう戦争が終わったからいいとかではなく、みんなで戦争のことを考えて、亡くなった方のことを考えて、戦争はどのようなか向き合うことが大切だと思いました。」「戦争はどんなに時がたっても、みんなで『平和な世の中にしていくには』と考えたりすることが、今私たちができることだと考えました。」などの感想があった。





## ○各学年・全校児童の取組等

### キューピークラブ 「施設訪問活動」

#### 【ねらい】

- ・自ら進んでボランティア活動に参加し、人や社会のために自分にできることについて考える。
- ・地域の方々と共に活動を計画し、練習や実践に取り組むことを通して、地域福祉に対する関心を高める。

#### 【協働団体】

- ・ 地区福祉委員さん
- ・ 社会福祉協議会さん

#### 【児童の学び】

コロナの影響で大幅に活動を縮小・変更せざるを得ない状況の中で、これまでの活動を思い返し、自分たちにできることを考えてリモート交流を計画することができた。



### 事業・活動を実施したことによる成果

地域と協働でつくる福祉共育では、地域の方との触れ合いの中で、見守ってもらったり、ほめてもらったり、アドバイスをもらったりすることを通して、子どもたちが実に表情豊かに活動を楽しむ姿がある。また、地域の方からも、「子どもたちに元気をもらった。」「次はいつきてくれるん？」など、必要としてもらえていることが伝わることも、子どもたちの自己有用感につながっている。

### 地域の方へ一言

地域と協働でつくる福祉共育や、赤い羽根共同募金など、子どもたちが地域の中で幸せに生きていくことにいつもお力を貸してくださり、本当にありがとうございます。地域の学校として、地域と共に子どもたちを育てていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

|                 |   |
|-----------------|---|
| <p>取組全体のまとめ</p> | <p>福祉共育の活動目標を「まちや人と出あい、自分との関わりについて学び、人や社会と共に生きることの大切さについて考えを深める」「全ての人暮らしやすい社会を築くために自分にできることを考え、実行しようとする意識を高める」と設定し、子どもたちの発達段階を意識された福祉共育活動に取り組まれています。</p> <p>1年生の「地域学習」、4年生の「障がい理解教育」、5年生の「平和学習」と、キューピークラブによる施設訪問活動（ボランティア）などで、子どもたちが主体的に活動できるプログラムや地域住民との関わりなどから、子どもたちが地域でどのように生活していくのかということ意識されています。これらは学校内で完結させるのではなく、地域住民にも可能な限り協力を求めながら福祉共育活動を進められています。</p>   |
| <p>取組良点・長所</p>  | <p>淡輪小学校の教育目標は「笑う」とされていますが、福祉共育の視点から考えると、誰と・何で・どのように笑うかということ大切にされているのではないかと感じました。その視点で目指す児童像の3つの柱である「進んで学習にとりくむ子ども」「自分を大切に子ども」「仲間を大切に子ども」は、福祉共育の中でも丁寧に取り組まれていると思います。</p> <p>例えば1年生の地域学習で昔遊びの体験では、地域の方から遊びを教わる中で、子どもの感想にもありましたが「ちいきの人はおてたま3こもできてすごかった」とあり、地域の方（人）との関わりに喜びや感動を経験ができていた感想がありました。福祉共育は地域で自分と他者の関わりとともに、他者との関わりに関心を高めることが重要であり、小学校早期からこのような取組がされていることは、今後子どもが地域で住民との接点を意識するきっかけにもつながるものと思います。</p> <p>また4年生の取組では障がい理解教育として子どもたち自身も車いすを使う体験をするとともに、日常の中にあるバリアに気づき、全ての人にとって過ごしやすい社会とは何かということを考えることをねらいとされています。これは車いすなど障がいがある人はかわいそう、大変だということだけで終わるだけにつながる車いす体験ではなく、子どもたち自身が地域の一員として何がバリアになるのかを考えることにより、子ども自身が地域住民の一員として主体的な生活者として地域づくりの視点を学ぶことにもつながっていくのではないのでしょうか。</p> <p>淡輪小学校のプログラムに地域の方も協力されている様子が伝わってきました。今後も小学校での福祉共育を地域とこれまで以上か活動に接点を大切にされ、子どもたちも地域の皆さんも地域が笑いあえること地域づくりに取組まれることを期待しています。</p> |

# 岬町立 深日小学校

## 学校の概要

|        |  |
|--------|--|
| 対象児童数  | 全校児童 80 名<br>1年生 15名・2年生 18名・3年生 11名<br>4年生 7名・5年生 12名・6年生 17名                                     |
| 教育目標   | 安心して学べる学校生活で、「知・徳・体」のバランスのとれた子どもを育成する  |
| 目指す児童像 | 1 「知」すすんで学び、確かな学力を身につけた子ども<br>2 「徳」すべての人とともに生きるなかで、豊かな心を身につけた子ども<br>3 「体」生命を尊び、健康に生きる力を身につけた子ども    |
| 校訓     | 1 自分のことは自分で（自主自立）<br>2 いつも明るく すべて正しく（公明正大）<br>3 工夫をこらそう（創意工夫）<br>4 みんな仲良く（協力尊重）<br>5 きまりを守ろう（秩序規律） |

|                   |   |
|-------------------|---|
| <p>事業・活動目標</p>    | <p>ひと・まち・つながる教育</p>   |
| <p>事業・活動の位置づけ</p> | <p>少子高齢化に伴い、人とのつながりを生かし、児童が主体的な学びを通して学習を深め、学校だけでなく地域も活性化する。</p> |

○各学年・全校児童の取組等

|  |  |
|--|--|
| <p style="text-align: center;"><b>2年生 手話の学習<br/>～伊木さんとの出会い～</b></p> <p>聴覚障がいのある伊木さんとは、直接会うことはできませんでしたが、映像を通しての交流を設定しました。取材した伊木さんの自己紹介映像を見せたところ、手話に大変興味をもち、多くの児童が自分から練習したり、伊木さんについて質問を考えたりすることができました。</p> <p>映像で一人ひとりの名前の手話を教えてもらい、「わたしの名前は～です。」と言えるようになりました。録画した2年生の自己紹介メッセージを届けたり、手話歌に取組んだりして、2学期も伊木さんとの交流を続けていく予定です。</p>       |   |
| <p style="text-align: center;"><b>3年生 まるみスーパー見学</b></p> <p>3年生は、「まるみスーパーさんの広告ポスターを作ろう」という目的意識をもった社会見学を行いました。</p> <p>子どもたちは、今まで日常的にいくことが少なかった地元のお店の魅力を再発見し、お店の人との交流を通して地元のお店に愛着を持つことができました。配達サービスを行っていることなど、福祉の視点に気づくこともできました。</p> <p>子どもたちが作った広告ポスターは、お店の入り口に掲示していただいています。学習の深まりに加えて、お店の方が子どもたちや学校教育活動に理解を深めてくださったことも良かったです。</p> |  |



## ○各学年・全校児童の取組等

### 全校梅とり体験～My梅干しへ～

R3年度で3年目の梅プロジェクト。地元の食材にふれ、生産から消費までを実感する目的で行っています。地域の河野さんに梅園を使わせていただき、全校梅取りを2回行いました。（梅ジュース用と梅干し用）

1年生は初めての梅取りで、「赤くないで、梅じゃないやん。」

「梅って土の中にできると思ってた。」など、子どもらしい発言が見られました。6年生に実がなっている枝を低くしてもらうなど、やさしい心の交流もはかることができました。

3年生は自分たちが1年生の時に植樹した梅の木に初めて実が実ったことに対する感動や喜びを感じていました。楽しく活動でき、「来年の梅取りが待ち遠しい」という感想も聞こえました。



### 5年生 梅プロジェクト

5年生は聞き取り学習を行い、梅ジュースや梅干しの作り方指導に加えて、梅作りに対する河野さんの思いも学ぶ貴重な学習機会となりました。学んだことは、壁新聞に表現しました。

完成した梅干しは、「My梅干し」として、個別容器で全校児童が持ち帰って味わうことができました。それぞれ家庭でどんな食べ方で楽しんだのか、感想を2学期にアンケートし、河野さんにお届けする予定です。



めっちゃおいしい！梅ジュース！

## ○各学年・全校児童の取組等

### 3・4年生 長松海岸での磯遊び

目的は、岬町の豊かな自然環境と地域の特性を生かし、磯遊びの体験学習をすることで、自然への感謝や郷土愛を育むことです。取組みの実施に当たっては、水産技術センター職員さんに知識面、安全面でサポートをしていただきました。

長松海岸は、校区内の自然海岸であるにもかかわらず、多くの児童が磯遊びを体験したことがありませんでした。

今回、海洋教育の一環として実施でき、子どもたちもアメフラシなどの海の生き物を見つけ、触り、感じることで、豊かな自然と人とのつながりを実感することができました。



### 5年生 戦争体験の聞き取り

地区福祉会委員長が窓口になってくださり、深日校区にお住まいの辻公三さんから戦争体験の聞き取り学習を行いました。太平洋戦争開戦から、終戦に向けて加速する戦争の状況を時系列で話していただき、よく分かりました。特に、深日地区に爆弾が落とされた話や辻さんが機銃掃射を受けたお話は、場所も分かるので、子どもたちは戦争の恐ろしさをより深く感じていました。

「次の世代の人たちにこの話を伝えたい。」「正しいと思う判断をしちようにする。」など、辻さんの思いをしっかりと受けた感想を届けることができていました。来年のヒロシマ修学旅行につながる、実りの多い学習となりました。





## ○各学年・全校児童の取組等

### 4年生 土のう作り体験

昨年度に引き続き今年度も岬町の危機管理担当の方々から、防災や自然災害発生時の対応などについて教えていただきました。今年は土のう作りの体験をしました。子どもたちはスコップで土を入れ、悪戦苦闘しながら紐を結び、30～40kgの土のうを作りました。それをみんなで運ぶのも力を合わせなければなりません。

危機管理担当の方々や消防団の方々は、災害時や大雨の時に、こんな重いものを運び、みんなの命を守ってくださっていることを体験を通して学ぶことができました。



### 5年生 車いす体験(R2)

例年は校外に出たの体験を行っていましたが、昨年度は新型コロナ感染予防の観点から校内施設を活用しての体験を実施しました。

社会福祉協議会や深日地区福祉委員会の方々にサポートしていただきました。普段何気なく移動している学校内を車いすで体験することで、バリアフリー(物と心の両面において)な世の中の必要性を感じることができました。



事業・活動を実施したことによる成果

人のつながりが子どもたちの視野を広げ、又、地域への愛着につながっている。それが、学校そして地域の元気につながっている。

地域の方へ一言

新型コロナ禍においても、感染予防対策を行いながら、子どもたちの成長ために今できることを共に考えて下さり、ご協力いただけてていることが本当にありがたいです。

|                 |  |
|-----------------|--|
| <p>取組全体のまとめ</p> | <p>福祉共育の活動目標を「ひと・まち・つながる教育」として、各学年での取組が進められています。これは小学校の<br/>         目指す児童像のひとつとして掲げられている「温かい思いやりを持ち、協力して高め合おうとする子ども」の考えとも深い関係性があるものと考えます。福祉共育の活動としては、2年生の「手話の学習」、3年生の「スーパー見学」、5年生の「梅プロジェクト」と全校を対象とした「梅干し体験～My梅干しへ～」、3・4年生は長松海岸での磯遊び」「土のう作り体験」、5年生の「戦争体験の聞き取り」「車いす体験」と、活動内容も多岐にわたっています。</p>  |
| <p>取組良点・長所</p>  | <p>深日小学校での福祉共育は狭い意味の福祉共育ではなく、地域での生活理解を意識された学びの取組が進められています。2年生の手話学習では単純に手話の技術を学習をするのではなく、実際に聴覚障がいのある住民の方に協力を求めて、交流を含めた福祉共育活動が行われています。この取組は、子どもたちが地域に生活される住民の方への関係性について意識し、コミュニケーション手段の一つとして手話を学ぶという意味が含まれていると感じ取りました。また地域の方との交流はその日に出会った人の交流だけでなく、地域で多様な住民の方が共に生活していることを理解できることも必要であり、報告書にもありましたが、そのプログラム当日限りの関係性だけでなく、継続的な関わりや他の地域住民の生活にも関心が持てるようにすることも大切な視点だと思います。</p> <p>あわせてこれらの小学校全体での段階ごとの福祉共育の実施により「地域についての理解」→「地域に関心を高める」→「生活理解」→「生活者としての自らとの接点の理解」など発展的な学びにつながるものと考えます。具体的には5年生の車いす体験ではバリアフリーについても考えられています。ここでは道路等の段差があるという物理的障壁だけでなく、心のバリアフリーについても取り上げられていました。物と心の両面が大切であるということは、バリアフリーに限定されるものではなく、地域生活においても障がいの有無を問わず、住民同士の関係性でも心を通い合わせることを学ぶ経験にもつながっていくのではないのでしょうか。また、これらは子どもたちが一方的に学ぶものではなく、地域住民の皆さんにとっても子どもたちとの関わりを通して心の通い合う地域での関係性を深める機会になるものと思います。</p> |

# 岬町立多奈川小学校

## 学校の概要

|         |  |
|---------|--|
| 対象児童数   | 全校児童 53名<br>1年生 4名・2年生 7名・3年生 13名<br>4年生 6名・5年生 13名・6年生 10名                                  |
| 学校教育目標  | 正しく、強く、明るい子ども<br>～確かな学力を身につけ、夢を持ち、<br>主体的に生きる子ども～  |
| 目指す子ども像 | ・自ら学び、自ら考え、より高い自分を求め努力する子ども<br>・温かい思いやりをもち、協力してともに高め合おうとする子ども<br>・心と体を鍛え、目標実現に向けて粘り強く努力する子ども |
| 目指す学校像  | ・子どもたちが喜び、学んだことを誇りに思える学校<br>・教職員が喜び、勤務したことを誇りに思える学校<br>・地域が喜び、親しみをもって誇りに思える学校                |

|                   |   |
|-------------------|---|
| <p>事業・活動目標</p>    | <p>一人ひとりの人間性を高めることを通して、福祉の意味についての理解を深め、共によりよい社会を築こうとする子どもを育成する。</p>   |
| <p>事業・活動の位置づけ</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、特別活動、道徳教育、生活科、総合的な学習の時間を中心に、すべての教育活動を通して活動を推進する。</li> <li>・地域の方々との連携を深め、岬町社会福祉協議会の支援を得て、活動の充実を図る。</li> </ul> |

○各学年・全校児童の取組等

**1年生 昔の遊び体験学習**

小学校へ入学してから初めて体験する事ばかりだった1年生にとって、3学期の始めの「昔の遊び体験」は、自分たちがお姉さん・お兄さんとして次に入学してくる保育所・幼稚園の年長児を招待して一緒に体験する取組みです。

多奈川地区福祉委員会の方々から、今では体験することがない昔の遊びを丁寧に教えていただきます。

1年生も体験を通して驚きと発見の連続ですが、下の子をリードしながらの体験となるので、周りの様子を常に意識しながら活動する児童の育成につながっています。



**2年生 おもちゃまつり**

2学期にみさき里山クラブの方々手作りのおもちゃ作りを楽しく教えていただきます。思いもよらない動きをするおもちゃを作る楽しさを知り、その仕組みを考えながら行う取組です。

そして、その取組を受けて、今度は自分たちのオリジナルのおもちゃを作って、保育所・幼稚園の年長児や1・3年生を招待する「おもちゃまつり」を行います。楽しく遊ぶためのルールを作ったり、分かりやすい説明の方法を考えたりと工夫する姿が毎年見られます。招待した人たちを楽しませることを意識しながら行動できる児童の育成につながっています。





## ○各学年・全校児童の取組等

### 3年生 お月見体験学習

古くから伝わる季節ごとの風習の一つである「お月見」。お月見団子をこねたり、石うすできな粉を挽いたりしながら交流し、昔の道具にも触れながら、情緒ある日本の四季を感じることでできる取組です。

毎年、多奈川地区福祉委員会の方々から、昔話を交えながら丁寧に教えていただきます。

子どもたちは、なぜ9月に月を見る風習があるのかについて、昔の多奈川地区で行われていた「団子つき」という風習に驚きながらも楽しんで体験することができます。

この体験学習を通して、子どもたちは、テレビ・携帯電話・ゲームだけでなく、電気機器そのものがなかった時代を想像し、移り行く日本の季節を感じられる児童の育成につながっています。



(昨年度は感染症予防のため実施せず。写真は一昨年度のもの。)

### 3年生 昔のくらし体験学習

自分たちの生活の仕方は、昔に比べてとても便利になっていること、また便利な物、仕組みがない状況で、昔の人たちがどのように工夫したり、協力したりしながら生活してきたのかを知り、考えることの出来る取組です。

多奈川地区福祉委員会の方々から、お釜でご飯を美味しく炊く方法や洗濯の方法などを、当時の思い出話を織り交ぜながら教えていただきます。

体験では、炊飯器で炊いているご飯と比べて美味しいと感じたり、冬の寒い日に水で洗濯する辛さを感じたりすることができます。

この体験を通じて、生活が豊かになるということについて、また不便を感じることに對して自分たちでもできる工夫や協力について考えることのできる児童の育成につながっています。



(昨年度は感染症予防のため聞き取りのみ実施。)

## ○各学年・全校児童の取組等

### 4年生 認知症講座

みんなが安心してこの少子高齢化社会で生きていくために、岬町でも認知症の症状の持った方々の割合が今後一層増えていくことを知ったり、もしもそのような方と出会ったらどのようなことができるのかを考えながら、様々な人との関わり方を学ぶ取組です。

岬町キャラバンメイト連絡会の方々から岬町の現状と認知症の方の特徴について教えていただきます。

子どもたちは、キャラバンメイトの方々の寸劇を見ながら、具体的な場面について考え、身近な人が認知症になる可能性もあるということも知り、考えを深めていました。

この講座を通して、少子化高齢化などの身の回りに起こっている諸課題について積極的に考え行動できる児童の育成につながっています。



(感染症防止のため寸劇はDVDで視聴。写真は一昨年度のもの。)

### 4年生 「出たぞ水だ」学習

今のように蛇口をひねると水が出るというような水道が整備されていなかった時代がありました。その生活を自分のためではなくみんなのために改善しようとした先人が岬町にいたことを知り、みんなの生活を豊かにしていくための考え方に触れることのできる取組です。

その先人を知る方から、当時の生活の様子をお聞きし、最後には家族や友達とどう接して行ってほしいかなどのメッセージをいただきます。

当時、水をくむ仕事は子どもが担っていたことを知り、実際に桶に水を入れて歩いてその過酷さも体験します。

この体験学習は、周りにいる人のために何ができるかを考えて行動できる児童の育成につながっています。





## ○各学年・全校児童の取組等

### 5年生 車いす体験学習

子どもたちが何気なく生活している学校でも、立場を変えれば生活しにくい環境だということを知り、どうすればみんなが暮らしやすくなるかを考えることのできる取組です。

この体験は多奈川地区福祉委員会の方々から、車いす一台ずつサポートしていただきながら実施しています。

子どもたちは、車いすに座る人・押す人の立場となって歩道を歩いたり、スロープを登ったり、買い物をしたりします。どんなことに不便さや不安さ、困難さを感じるのか、これから様々な視点で考えることのできる児童の育成につながっています。



### 6年生 平和学習

私たちが安心して自分の夢や目標に向かっていけるのは、平和な社会があるからだということ、広島への修学旅行を通して一人ひとりが考える取組です。

事前学習では、実際に多奈川で空襲を体験された方々からお話をお聞きしたり、地域の方から広島で奉納する千羽鶴を託されたりとたくさんの方々の想いに触れます。

毎年、広島から帰ってきた子どもたちは、1～5年生・教職員の前に立ち、自分たちの言葉で堂々と平和の大切さや戦争の悲惨さを語る姿を見せてくれます。



### 事業・活動を実施したことによる成果

お互いを支え合いながら、地域ともつながることができる子どもの育成を進めることができた。

子どもたちが、地域の方々の熱い思いをしっかりと受け止め、その思いにこたえられるようにがんばろうとする姿勢が随所に見られるようになった。地域のボランティアさんに挨拶やお礼の言葉を伝える声の大きさを育ってきた。

### 地域の方へ一言

子どもたちのために惜しみなく、出来る限りのことをしていただける地域の方々に支えられて、このコロナ禍の中でも多奈川小学校の教育活動を進めることができています。簡単に「できない」とするのではなく、どうすればできるかを一緒に考えていただけていることに、深く感謝しております。

|                 |   |
|-----------------|---|
| <p>取組全体のまとめ</p> | <p>福祉共育の活動目標として、「一人ひとりの人間性を高めることを通して、福祉の意味についての理解を深め、共によりよい社会を築こうとする子どもを育成する」とされています。具体的な取組として1年生「昔の遊び体験学習」、2年生「おもちゃまつり」、3年生「お月見体験学習」「昔のくらし体験学習」、4年生「認知症講座」「『出たぞ水だ』学習」、5年生「車いす体験学習」、6年生「平和学習」に取組まれています。多岐にわたるプログラムがありますが、子どもたちが生活理解を進めることにより、子どもたち自身が生活の当事者としての意識を高められるように活動されています。これは多奈川小学校の目指す子ども像である「温かい思いやりをもち、協力してともに高め合おうとする子ども」にもつながる取組であると考えます。</p>   |
| <p>取組良点・長所</p>  | <p>子どもたちが生活者としての理解をするために、地域の皆さんと関わることや、地域の資源を活用しながら取組が進められています。1年生の「昔の遊び体験学習」は、地区福祉委員会の皆さんから昔の遊びを教わる取組ですが、子どもたちの側から見てみると、地域住民の皆さんへの意識を持つとともに、日頃からの地域で関わっている人との接点についても考えることができると思われます。それとともに昔の遊びを住民の方から教わることで、住民の方の遊びの技術を子どもが感じるとともに遊びのプロとしての憧れや尊敬の念を持つこともあるのではないのでしょうか。</p> <p>また、交流での人との関係性の基盤を作った後は、自然学習、生活理解、福祉学習、平和学習へと進められてますが、それぞれの段階でも住民の方とも協力を求めながら福祉共育活動が進められています。また、地域の環境を生かした取組も、子どもが身近に自身との関係性を考えていくためにも大切なことであると思えます。</p> <p>このように地域住民などの他者や環境との関係性を考えるには、これらの接点との日々の関係に気づくこと、そしてその接点から関心を深めること、直接的に五感によって関わること、そうして自身も主体としてどのように生活者としてつながり続けるのかということと考えられるようにしていくことが重要です。</p> <p>そうして、福祉共育のねらいを持つとともに、これらの取組によって子どもたちの生活が具体的にどのように充実しているのかということ意識するとともに、その様子を学校だけでなく地域住民の皆さんとも共有することが今後の活動につなげるために大切なことではないかと感じました。</p> |

# 岬町立 岬中学校

## 学校の概要

|        |   |
|--------|---|
| 対象生徒数  | 全校生徒 283 名<br>1年生86名・2年生95名・3年生102名   |
| 教育目標   | 学校教育目標：安心して学べる楽しい学校づくりをとおして一人ひとりが輝く<br>人権教育目標：人権感覚を確立し、差別を見抜き反差別に生きる力を身に付ける   |
| 目指す生徒像 | <ul style="list-style-type: none"><li>・自分及び他者の人権を守る行動ができる生徒</li><li>・自分自身を高め、未来を切り拓く生徒</li><li>・人と人とのつながりを大切にする生徒</li></ul> |
| 校訓     | ひとはみんなのために<br>みんなはひとりのために   |

|                   |   |
|-------------------|---|
| <p>事業・活動目標</p>    | <p>様々な人たちとの出会いを通して、生徒たちが自分の生き方を考えられる取組をしている。生徒は出会いをとおして自己をみつめ、周りとの協力し、様々なことに取組んでいる。出会いを大切に、地域へ感謝の思いを返していけるよう事業を行っている。</p> |
| <p>事業・活動の位置づけ</p> | <p>人権教育を基本に位置づけ、教育活動を展開している。本事業は、お互いの違いを認め合い、自分の生き方を探っていくという人権総合学習の中で、地域とつながり、具体的な体験や出会いができる学習活動として、位置づけている。</p>          |

## ○各学年・全校生徒の取組

|   |   |
|---|---|
| <p style="text-align: center;"><b>全校生徒対象<br/>いじめをなくす取組</b></p> <p>・目的<br/>いじめられた心の傷は「一生つきまとう」ものであり、いじめる側の責任の重さに気付かせる。自分の言動が「いじめ」になり得ることを認識させる。</p> <p>・内容<br/>絵本『2番目の悪者』を読んで、自分事と捉えることの大切さに気付かせ、行動することの大切さを知る。<br/>いじめをなくすために自分にできることを考え、岬中学校の「いじめあかん文化」を継承していく。<br/>いじめをなくしたいという思いを全校集会で共有する。</p> <p>・活動を通して<br/>生徒からは「この学習で物事を表面的に見てはダメだとわかった」（1年生）、「自分が今できることや行動に示すことで何か変わっていくと思う」（2年生）、「今、自分の周りには叱ってくれる友達がいるから、その友達に感謝しようと思った」（3年生）などの感想があった。授業では一人ひとりが日常の自分の生活に重ねて考えることができ、集会では岬中学校からいじめをなくしたい、との思いを全校生徒で共有することができた。</p> |  |
|---|---|



## ○各学年・全校生徒の取組等

### 第1・2年生対象 ノーマライゼーション（共生）学習

#### ・目的

1年…常石さんとの出会いを通して、困難を乗り越え挑戦し続ける生き方を学ぶ。  
2年…障がい乗り越えて輝いている身近な先輩との出会いから、諦めない気持ちや困難に逃げずに向き合う気持ちを学ぶ。

#### ・内容

岬中の卒業生であり、元JRA騎手・現在障がい者馬術の選手として活躍されている常石勝義さんを招いて講演会・交流会を行った。

#### ・活動を通して

生徒たちは前向きに挑戦し続ける常石さんの姿から、「自分らしい生き方」とは何かを学んだ。また、「私も常石さんのように困難があっても乗り越えて頑張っていきたい」との感想があがった。



### 全校生徒対象 平和登校日

#### ・目的

広島平和記念日の8月6日に平和を祈り、今世界や日本で起きていることに感心をもつ。平和をつくっていくのは自分たちであるとの意識を高くする。

#### ・内容

3年生から今までの平和学習のまとめを発表。そのあと、沖縄戦遺骨収集国吉勇応援会・学生共同代表の西尾慧吾さんを招いて講演会を行った。西尾さんからは自身の修学旅行での体験や現在の活動についてお話を伺った。

#### ・活動を通して

講演後の質疑では多くの生徒の手が挙がり、活発な交流になった。生徒たちにとって「自分事」として捉えることの大切さを改めて考える機会になった。



## ○各学年・全校生徒の取組等

### ぴ～ふる（人権サークル）対象 平和登校日

#### ・目的

地域の方から太平洋戦争当時の岬町での出来事についてお話を聞くことで、地域の歴史に関心を持つ。どこか遠くの話、ではなく身近なところで起こった話を聞くことで平和を求める意識を高める。

#### ・内容

深日地区福祉委員の中村勲さんから太平洋戦争時の深日地区の空襲について、軍需工場での逸話を聞く。

#### ・活動を通して

地元のことであるが、「知らなかった」との感想を述べる生徒が多かった。中学生が地域の方から戦時中のお話を聞くことが今までになかったが、今回初めてこのような時間を設けていただいた。とても良い学びになった。



### 1・2年生対象（過年度） 部落問題学習

#### ・目的

あらゆる差別を許さない生徒の育成を目指す。反差別の生き方をする方々との出会いを通して人権感覚を磨く。

#### ・内容

○絵本『ひらがなにつき』の作者吉田一子さんの生い立ちを学び、娘さんの清水順子さんと出会う。（1年）

○2学期の校外学習で奈良の水平社博物館へ行き、西光寺の清原隆宣さんに出会う。（1年）

○宿泊体験学習で姫路の太鼓職人杉本大士さんに出会う。（2年）

#### ・学習を通して

差別の現実には学び、人の思いに触れることで、差別に負けない生き方をしたいとの感想が生徒たちから毎年あがっている。





## ○各学年・全校生徒の取組等

### 2年生（過年度） 職業体験学習

・目的  
体験を通して、将来の自分について考え働くことの大切さを学ぶ。

・内容  
地域にある事業所さんにご協力いただき、2日間の職場体験をさせてもらう。体験で学んだことをレポートにまとめ、振り返る。また、校務員さんや事務員さん、卒業生の方々から職業に関する聞き取り学習をする。

・学習を通して  
生徒たちは体験先で様々なことを教えていただき、仕事をするものの大切さや苦労を身近に感じることができる。各事業所の方々にはいつも温かく受け入れてくださっており、大変感謝しております。



### 3年生対象（過年度） 多文化共生学習

・目的  
様々な文化をルーツに持つ人との「共生」について考える。他者を尊重することの大切さについて学ぶ。

・内容  
在日コリアの方々についての学習を中心に日本と朝鮮半島の歴史を学ぶ。劇団タルオルムの方々の劇を鑑賞し、劇団員の方との交流を行う。

・学習を通して  
劇や出会いを通して、一人ひとりが持つルーツや文化を尊重することの大切さがわかったとの感想が生徒たちから毎年あがっている。



事業・活動を実施したことによる成果

「出会い」を通して、人の思いに触れることで生徒の心の成長につながっている。

地域の方へ一言

登校指導や取組の際にご協力いただき、誠にありがとうございます。朝の見守りのときに声をかけてもらっている生徒もいて、地域の方の関わりがあってこそ安全な学校づくりができていると感じます。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

|                 |  |
|-----------------|--|
| <p>取組全体のまとめ</p> | <p>岬中学校全体の人権教育目標として「人権感覚を確立し、差別を見抜き反差別に生きる力を身に付ける」とし、学校全体の教育活動を通して人権教育に取り組まれています。福祉共育の活動では、様々な人との出会いを大切にされて進められています。全学年対象の「いじめをなくす取組」「平和登校日」、1・2年生対象の「ノーマライゼーション（共生）学習」、「ぴ～ぶる（人権サークル）」、「部落問題学習」「職業体験学習」「多文化共生学習」など多岐にわたる活動となっています。</p>   |
| <p>取組良点・長所</p>  | <p>福祉共育の取組は、人々の福祉を高めていくものであり、その意味からも岬中学校で取組まれている人権教育にも相互に重なっているところが多いです。子どもたちが自らの生活を見つめ、他の子どもたちや地域住民の方との関わりを通して周囲の人との関係を理解し、その直接的な経験から人権意識を高めていく活動が行われていると感じました。この取組の中で、いじめをなくす取組が行われていますが、いじめる・いじめられるといった当事者間の問題として考えるのではなく、岬中学校で取組まれている「いじめあかん文化」を継承するためにも、いじめをわが事として考える工夫が図られているように捉えました。そのほかにも共生や平和、多文化共生などの学びの機会は、限られた地域（ローカル）での生活（ローカル）とともに、今後必要となる世界や社会（グローバル）での生活を考え、そして行動に移していくためにも大変意味があるものであると思います。また「自分らしさ」を考える中学生時代に「他者との共存」を具体的に捉えていく視点や、地域住民の方との関わりなども取り入れられた取組の中で、子ども自身も地域の生活者の一員として存在することを意識していくことを進めるためにも福祉共育の活動が活きてもらえればと感じました。</p> <p>岬町では各小学校での福祉共育活動も実施されていますので、子どもたちの学びの継続性を意識し、可能な範囲で福祉共育プログラムの接続について検討いただく機会がありましたら、子どもたちにとってもより学びが深まっていくのではないのでしょうか。</p> |





赤い羽根  
共同募金

10月1日▶12月31日

## 赤い羽根共同募金 しくみと配分金の つかいみち

大阪府下の各市町村地区募金会で集められた募金は、一度、大阪府共同募金会で集約され、次年度に社会福祉施設・団体や社会福祉協議会などへ配分されます。



当該年度  
(10月~12月)

次年度

戸別募金 法人募金 バッジ募金  
街頭募金 学校募金 職域募金 など

募金

岬地区募金会

=岬町社会福祉協議会  
が担っています。

送金・集約

大阪府共同募金会

配分

地域福祉事業

広域福祉事業

岬町社会福祉協議会

大阪府下社会福祉施設・団体

より身近な地域  
福祉事業へ

社会福祉施設・団体や草の根の  
ボランティア活動の支援、災害  
支援へ

令和元年10月~12月に岬町で集まった募金(2,717,381円)は、令和2年度に大阪府共同募金会から岬町社会福祉協議会へ2,473,896円配分され、下記の事業に活用させていただきました。ご支援ありがとうございました。

## 令和元年度募金による令和2年度配分事業

### ①移送サービス事業

135,504円

高齢者や障がい者などの方々の通院等の送迎を行いました。



### ②ふれあい給食サービス事業

645,350円

おおむね80歳以上の一人暮らし高齢者などの方々のへ給食サービスを実施しました。



### ③福祉教育(共育)推進事業

20,514円

キッズボランティア活動の推進や「福祉協力校推進指定事業活動資料集」を作成し、大人も子どもも地域の中で共に生き、学びあい、育ちあう「福祉共育」に取り組みました。



### ④福祉協力校推進指定事業

400,000円

福祉・ボランティア教育を推進するため、淡輪・深日・多奈川小学校、岬中学校を福祉協力校として指定し、助成を行いました。



### ⑤精神保健福祉推進事業

32,940円

精神障がい者の偏見、差別を軽減し、自立支援・社会参加の支援を行いました。



### ⑥岬町ボランティア住民活動支援センター事業

957,833円

災害ボランティア養成講座や岬町災害ボランティアセンターの機能整備など防災・減災への取り組みや各種のボランティア・住民活動等を推進し、新規ボランティアや人材育成講座の開催などボランティアや住民活動の拠点として支援を行いました。



### ⑦広報・啓発事業

246,986円

岬町の地域福祉の情報を発信するため、「社協みさき」の発行やインターネットでの情報発信などを行いました。



### ⑧その他の地域福祉事業

34,769円

認知症カフェ「おにぎりサロン・喫茶Sunデー」の開催や岬町地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進等を行いました。



新型コロナウイルス感染防止対応により、事業の中止や変更等の措置を講じるとともに、「外出自粛等により不安を抱える高齢者や障がい者等への見守り支援活動」も実施しました。



# 精神保健福祉ボランティアグループ ほのほのみさき

## ほのほのサロン

ひきこもりや心に辛さ・不安をお持ちの方などを対象に、食事やゲームを通して、参加者・ほのほのみさきのボランティア同士で仲良く交流する、ほっとする居場所です。



## 環境美化活動



ほのほのサロンの活動の一つとして、町も気持ちもきれいに豊かになるよう、ゴミ拾いを行い、環境美化の活動にも取り組んでいます。

## 見守り支援活動

コロナウイルスの影響で、外出を自粛している障がいのある方などが、不安を抱えないよう、郵送や訪問による見守り支援活動も行っています。



こころの病や障がいのある方への理解促進や支援活動、当事者やその家族と共に、地域での貢献活動の取組

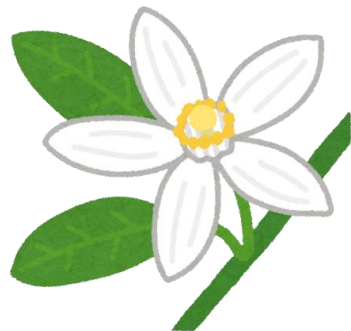
# <ほのほのみさきの成り立ち>



岬町社協主催：精神福祉講座



岬町社協主催：ボランティア養成講座



ほのほのみさき

**ほのほのみさきの活動は102回、  
ほのほのサロンは99回と  
活動は15年以上続いています！**

ほのほのみさきは、これからもひきこもりや心に辛さ・不安をお持ちの方などが、地域で安心して暮らせるようサポートしていきます。



# 精神保健福祉家族会「あすなろ」

あすなろサロンへのお誘い

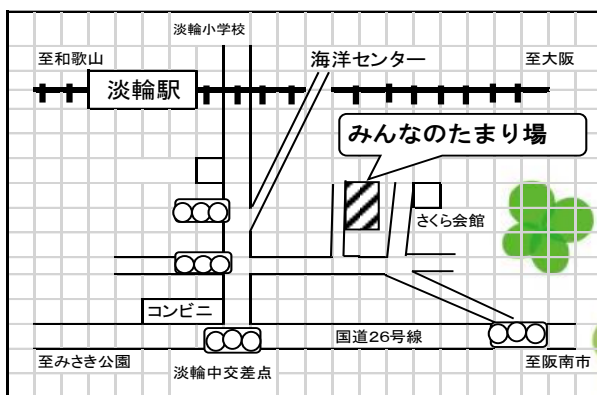
## ひきこもりや心の病のある方のご家族へ

「家族会あすなろ」では、ひきこもりや心に辛さ・不安等ある方のご家族が、普段言えない悩みや困りごと等、お茶やお菓子で一息入れながら、参加者同士で話したり聴いたりしています。

ひとりで抱え込まずにお気軽にご参加下さい。

- ☆日 時 : 毎月の第3金曜日 13:00~15:00
  - ☆場 所 : みんなのたまり場
  - ☆参加費 : 100円 (お茶代)
  - ☆対象者 : ひきこもりや心の病・障がいのある方のご家族 等
- ※日時・場所の変更がある場合もございますので、まずはお電話下さい。

プライバシー、個人情報大切に、しっかり守ります！



### 【お問い合わせ】

社会福祉法人 岬町社会福祉協議会  
〒599-0303 大阪府泉南郡岬町深日3238-24  
☎ : 072-492-0633・5700 / FAX : 072-492-5701



# ～家族会あすなろの活動～

## あすなろサロン 【毎月開催（施設等見学訪問以外）】

みんなのたまり場にて、13時00分から15時00分の間、参加者同士で近況等についてお話したり、DVDを活用して学びを深めています。

あすなろサロンは、私にとって気兼ねなく息子の話や悩み等相談でき、共感してもらえる、貴重な場所です。



※時には、社協職員（社会福祉士）や施設の相談員、コミュニティソーシャルワーカー等、専門職も参加され、問題解決のための一歩踏み出すためのお手伝いをしてくれます。



## 施設等見学訪問 【10月～11月頃】

施設や他機関等へ訪問し、一緒に学びを深めましょう！

（参考）出発（10：00）～食事（12：00）～施設等見学（13：00）～帰路（17：00）等



多種多様な取組を、いろんな機関や施設でされている活動を拝見し、考えさせられることが多々あります。そして、いつも、`見学できてよかった`と思ひ帰路についています。



## あすなろ・ほのぼの合同クリスマス会 【12月】

「家族会あすなろサロン」「ほのぼのサロン」の合同で、「クリスマス会」を開催！参加者同士、楽しく過ごしています。

※「ほのぼのサロン」とは、心に辛さや不安等ある方が参加し、楽しいひとときを過ごす当事者サロンです。

普段、顔を合わせる事のない、あすなろサロンとほのぼのサロンのメンバーが、一緒にランチとケーキを食べながら、おしゃべりして、楽しいひとときを過ごしています。



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を変更する場合があります。なお、毎月の「あすなろサロン」は感染拡大防止を行いながら、可能な範囲で開催していますので、お気軽にご参加・ご相談下さい。

# ほほえみ

## 岬町介護者(家族)の会



### 学ぶ場を

- 介護をする人の気持ちにより添える介護講座
- 制度での介護予防・日常生活支援総合事業を学ぶ
- 訪問看護、在宅医療について学ぶ
- 感染症予防・健康な体づくりについて学ぶ

皆さんが身近なテーマで『学ぶ』場があります！



### 楽しめる場を

- リフレッシュ行事
- クリスマス会
- ほほえみ笑学校
- 身近な物を使ってほほえみら〜く楽かたん体操

忙しい毎日を忘れ『楽しめる』場があります！



### 集う場を

- 『おーぱんかふえほほえみ』
- 『訪問カフェほほえみ』

皆さんが気軽に『集う』場があります！  
日頃の何気ない話で楽しい時間を♪





## 共有する場を

- 泉州地域の介護者家族の会との活動交流
- 見守り訪問活動で日頃の思いを共有

色々な所で意見や気持ちを『共有』する場があります！



## つながる場を

- 他会に参加しいろいろな会とつながる
- ラン伴に参加し認知症について考え、当事者と交流し理解を深める

いろいろな団体と『つながる』場があります！



## ほほえみの場

ほほえみはこれからも介護する方・される方、  
どなたでも『ほほえむ』事の出来る場を創っていきます！



①精神保健福祉ボランティアグループ「ほのぼのみさき」

|                 |   |
|-----------------|---|
| <p>取組全体のまとめ</p> | <p>こころの病や障がいのある方を対象としたサロン活動、環境美化活動、見守り活動を15年以上も続けられています。これまでに精神福祉講座やボランティア養成講座など、社協などと協力した事業を実施するなど、地域住民など多様な方への学びの機会に取り組まれるなど、地域での共育活動に取組まれています。</p>                                   |
| <p>取組良点・長所</p>  | <p>ほのぼのみさきさんの取組では、みんなが生活する地域で、お互いのことを大切にしようことができることを目指して活動されていると感じました。こころの負担やハンディキャップのある方は、ご本人や家族にとって負担や不安も含まれると思います。そのような大変さに寄り添いながらも、様々な取組に取組まれることは、メンバーや地域の方の福祉共育での学びにつながると考えます。</p> |

②精神保健福祉家族会「あすなろ」

|                 |   |
|-----------------|---|
| <p>取組全体のまとめ</p> | <p>地域にお住いのひきこもりや心の病のある方の家族会として活動されています。みんなのたまり場を活動拠点とし、あすなろサロン、施設等見学訪問、あすなろ・ほのぼの合同クリスマス会を実施するなど、参加者による交流活動を進められています。</p>  |
| <p>取組良点・長所</p>  | <p>ひきこもりやこころの病は外部から見えづらいところがあるとともに、それ以上にご本人やご家族の日々の不安や苦労なども多いとされています。あすなろさんはその当事者のご家族を主な参加対象されていますが、家族ならではの語り合いは参加される皆さんにとってつながりや心の開放などの機会であるとともに、参加される皆さんのお互いの学び合いの機会（福祉共育）として大切なことであると考えます。</p> |

③岬町介護者（家族）会「ほほえみ」

|                 |  |
|-----------------|--|
| <p>取組全体のまとめ</p> | <p>介護者の家族会として「学ぶ場」「楽しめる場」「集う場」「共有する場」「つながる場」「ほほえみの場」として、介護者や家族観の交流や学習、介護者の気分転換を図るなど、多様な取組を通して、参加者同士の共育活動を進められています。</p>   |
| <p>取組良点・長所</p>  | <p>高齢者の割合が増加している現在、ほほえみさんでは介護者の家族のケアや交流を進められています。当事者の家族ならではの苦労や大変さもある中で、多様な活動を展開されているところは、介護者の負担の軽減にもつながっているのではないかと思います。またそれぞれの「場」のテーマを設けられ、様々な企画をされているところは、参加者のニーズに寄り添った内容であり、多様な機会を通して福祉共育の取組であると考えます。</p> |



## <参考>

# 令和元年度 地域福祉実践プレゼンテーション

1、日 時 令和元年8月29日(木) 午後1時30分～午後4時45分

2、場 所 岬町社会福祉協議会(会議室・ボランティアルーム)

3、参加者 45名

4、内 容 『“福祉共育”をとおして町づくりを考える』

【第1部】午後1時30分～午後3時50分

○ 講演 『安心して暮らし続けられるまちづくり  
～地域におけるセーフティネットを考える～』

講師 大阪人間科学大学 准教授 石川 久仁子 氏



講演の様子



参加者の様子

○赤い羽根共同募金運動について

○福祉協力校プレゼンテーション

(4校①深日小学校 ②岬中学校 ③淡輪小学校 ④多奈川小学校)

○全体まとめ

○閉会



福祉協力校プレゼンテーションの様子

【第2部】午後4時00分～午後4時45分

○福祉協力校推進検討委員会

【委員】岬町社協正副会長、各地区福祉委員会

岬町社会福祉施設等連絡会、岬町民生委員児童委員協議会

【講師】大阪人間科学大学 准教授 石川久仁子 氏



福祉協力校推進検討委員会の様子



心と心をつなぐ赤い羽根



大阪芸術大学 デザイン学科 山口 泉香



今こそ福祉に支援の手を!

# 赤い羽根共同募金

10月から始まる共同募金にご協力よろしくお願いします

スマホからも  
募金できます!



発行：社会福祉法人 岬町社会福祉協議会  
〒599-0303 大阪府泉南郡岬町深日3238-24  
TEL:072-492-0633・5700 FAX:072-492-5701